

高梁城南高等学校 令和元年度 第3学期終業式 式辞

今日は令和元年度の締めくくりの日です。残念ながら、皆さんの顔を見ながらお話しできる機会が持てないため、文字にてお伝えします。

まず嬉しかったこと。今年度も、この1年間、健康に過ごせた結果、「皆勤」であった人が何人もいました。皆勤で頑張れた人、皆さんの努力を心から賞賛します。でも、何よりもまずそれを支えてくださった人に皆さんから感謝の気持ちを伝えてください。惜しくもいま一步だったと思う人も生活習慣の中で修正ポイントを見つけて改善に取り組みましょう。ウィルスに負けず、どうか全員が来年度も1年間健康で前向きに過ごせますように！

1月の課題研究発表会の最後にプレゼンがありましたが、今年度、「リージョナルモデル事業」という地域連携事業として、本校は各科の専門分野の特性を発揮しながら「城南カフェ」の開店を目指した取組をスタートしました。もう既に店舗や内装、キャラクターなどの具体的なデザイン作成や電気工事等も行われているという報告もありましたね。

では、これを踏まえて1年間の締めくくりとして今年度の振り返りをしましょう。チェックポイントを2点挙げますので、これを手がかりに自分の1年間を振り返ってみてください。

質問1：地域連携を通じて、あなたが今年度特に身に付いたと思える力は何ですか？つまり、今年の評価です。

質問2：身に付けた力のうち、あなたの能力のどの部分を来年度はさらに伸ばせばよいでしょうか？つまり、来年度への展望です。

もちろん、「リージョナルモデル事業」以外にも、委員会活動や部活動等で活躍した人もたくさんいます。大切なことは、それぞれに頑張れたことが何であれ、自分のことを客観的に評価できる力、これを「メタ認知」と呼びますが、これからの時代に必要な力でしょう。人と比べる必要はありません。自分の中に基準や目標を設定して、折々にチェックしてみましょう。漫然と毎日を過ごすよりも、きっと自信とやる気につながると思います。

19世紀のイギリスの思想家・歴史家であるトーマス・カーライルは「人間は道具を使う動物である。道具なしでは『無』であり、道具があると『全て』である。」と言っています。

「人間は道具が無ければただの無力な存在にすぎないが、自分で考え、造り出した道具を使えば、物事を器用に処理するにとどまらず、自分の可能性を無限に拡大できる全能の存在になれる。」という意味でしょう。だから、「夢を夢で終わらせないよう工夫できる存在であることが、人間の人間たるゆえんだ」とカーライルは言っているように私には思えます。

皆さんご存じのアニメ、ドラえもののポケットから出てくる「夢の道具」は使い方を間違えたとのび太やドラえもん、その周囲にいる人を困らせることになります。でも、それはのび太たちが勝手な使い方をするからです。例えば人の心の中に「簡単に空を飛びたい」という願望が最初から無ければ「タケコプター」はドラえもののポケットから出てきません。どんな才能のある科学者も「人間はどうせ鳥ではないのだから」と思った瞬間に「何とか空を飛ぶ道具を考えよう」という思考は存在しなくなります。「空を飛びたい」理由が例えば「空は渋滞がなくて移動を楽しみたい」という切実なものであれば、「空を飛ぶ」代わりに渋滞のない交通システムを今まで以上に真剣に考えるかも知れません。また、「気持ちよく空に浮かんでみたい」のであれば、タケコプターほど小さくはありませんが、背中に装備するジェット噴射装置がロス五輪のスタジアムで現実には披露されました。だから、「こうありたい」と願わなければ、最初からそうなるための努力はなされない、要するに、願いの無いところに人間の力を補うための、そして夢の実現のための道具は生まれないということです。

話を戻します。自分の住む地域にはこんな課題がある、そのためにどうすればその課題が解決できるか、を考えるためには、まずは「こうありたい」姿を考えることが重要です。そう考えて行動することが今年度始まった「リージョナルモデル事業」ではないでしょうか。

まず、この備北地区が活性化するにはどうなればいいと思いますか？「この地域の限らずどこだってどうせ過疎化は食い止められないから」と諦めますか？

次に、今の自分なら何から手をつけられますか？

そして、自分のどこを補強すればもっと力が発揮できそうですか？

冒頭でチェックしました、「城南カフェ」実現を通して、考えて行動できる力を身に付けて充実した高校生活が送れるよう、今の自分はどんな心構えや準備ができているかの評価を適切にするために、春休み中には是非ともしっかりと今年の振り返りをしてほしいと思います。そして、自分の強みと弱みを自分自身で意識して新年度を迎えてください。

さて、いよいよ正式な春休みです。先日、送辞担当の生徒代表以外には在校生のいない会場で卒業生を送り出しました。卒業生やその保護者、また先生方もそうでしょうし、私自身も複雑な気持ちでしたが、一方で先輩たちのすがすがしい旅立ちの風景にほっこりしました。2年生の皆さん、来年の3月は皆さんが送り出される番です。この春休み以降、様々な心の栄養となる体験を積み重ねて、自分の目標達成に向けて精一杯成長してくれることを期待します。そして、1年生の皆さんも同様に今年度よりも一回り二回り成長し、「中心学年」として来月入学してくる新入生をしっかりリードするとともに、学校生活をさらに充実させてくれることを期待します。来年度に向けてうまくスタートを切る準備をこの春休み中に始めてください。

新型コロナウイルスの早期の終息、そして4月に学校で皆さんの元気で明るい顔が見えることを期待して、今年度の締めくくりの挨拶といたします。

令和2年3月19日

高梁城南高等学校長 松下 泰久